

KYOTO HIYOSHI KOZUMI



A to Z



## Introduction

### 【序奏】

日吉町の玄関口でもある「道の駅スプリングスひよし」より北に向って府道を走ると、目の前に緑深き樹々が迫ってきます。まさに「木が住む」という名が似合うこの入り口に名前の由来となった笛吹神社が建っています。

かつて、「木住」の人々は材木や薪など  
“木びき”で生計を立てており

笛吹神社の祭神とあいまって『木住』と  
名がついたと伝えられています。

時代の変化で木住の現状も大きく変化しましたが、  
笛吹神社の神木とともに、生きた先人の足跡を  
次世代に伝えていきたいと思っています。

## History

### 【由来】

#### 笛吹神社

推古天皇の時代に秦河勝という人が夢のお告げで木住に来られ、立派なケヤキの大木を見つけ、この木で太秦の広隆寺を建てられました。そのお礼に、その跡に小さな宮を建て、大山住尊を御神体としてお祀りになられました。木住と言う地名は木の住処とこのご神体から取ったものと思われます。

#### 湯浅家

湯浅家の祖先は紀州の湯浅の庄司であり、建武の頃には楠正成に加担して没落したが、南北朝の合一の時、南朝の後龜山天皇に従い、神器を持って入京して、その功により世木郷を与えられ、明徳4年（1393年）に丹波世木庄に定住した湯浅宗朝から始まります。その後、丹波守護職、時の菅領細川家に仕えて丹波目代となりました。応仁・文明の乱の時、湯浅宗武は細川勝之に代わって討死しました。勝之は丹波に逃れて宗武の妹を娶って、宗正が誕生。湯浅家を嗣ぎ、宗正の子の時に、郷士となりました。宗正の娘は細川藤孝（幽斎）の子、宗清を生み、湯浅家を相続させました。腹違いの兄忠興は光秀の娘玉（ガラシャ）と結婚し、忠利をもうけ、熊本藩主となりました。宗清は忠利の叔父にあたり、細川家は湯浅家を細川家第一の親戚としてあつかい、幕末まで続きました。

出典：丹波史談会 秋里悠兒著

- A AjisaiRoad  
**A** 紫陽花(アジサイロード)  
 Bandobashi  
**B** 番戸橋  
 Chikurin  
**C** 竹林  
 Daichidou  
**D** 大智堂  
 Egao  
**E** 笑顔  
 Fuefuki  
**F** 笛吹神社  
 Gimin  
**G** 義民(湯浅太兵衛永矩)  
 Housyunji  
**H** 逢春寺  
 Hiuchi-iwa  
**I** 火打岩  
 Jyuichimen  
**J** 十一面観音  
 Kozumi  
**K** 木住区集会所  
 Line  
**L** 猪谷林道  
 Mattake  
**M** まったくけ

- N NantanBusTerminal  
**N** 南丹市営バスターミナル  
 Oosugi  
**O** 大杉(パワースポット)  
 PikaPika  
**P** ピカピカ(夜空)  
 Question  
**Q** 首なし地蔵  
 Rokujizou  
**R** 六地蔵  
 Shidare  
**S** シダレザクラ  
 TanbaKuromame  
**T** 丹波黒大豆  
 Undoukai  
**U** 運動会(秋の祭典)  
 Vacation  
**V** バケーション(木住川)  
 Wa  
**W** 輪  
 Shinsuikouen  
**X** 木住親水公園(交流)  
 Yuasa  
**Y** 湯浅五郎兵衛 忍法「天井張り付」の術  
 amidabutsuZazou  
**Z** 阿弥陀堂(座像)  
 病んでいる所によく効く薬



木住から生畠を結ぶ道路は生活道路として必不可少な道路です。この道路に美しい景観を作ろうと区民あげてアジサイを植樹し、「アジサイロード」と命名しました。開花期の6月になると遠方から写真を撮りに来られる方も多く見受けられます。アジサイの花言葉は時期や土壤によって変化することから「移り気、浮気、無常」です。色ごとの花言葉は「青」が辛抱強い愛情、「ピンク」は元気な女性、「白」は寛容といわれています。

## A 紫陽花(アジサイロード) AjisaiRoad

木住区市道最上流にかかる橋で、現在の橋は平成5年(1993)6月に架設されました。水面から高さのあるこの橋は、度重なる台風や豪雨などの水害にも耐えるなど地域の交通を護ってきました。初夏になると周辺にはホタルが乱舞し、都会からの見物客で賑わうなど、隠れた観光名所です。(「木住七つの架け橋」の一つ)

## B 番戸橋 Bandobashi

木住には素晴らしい竹林が…というわけではありませんが、農業が盛んな木住地区では竹材はとても重宝されており、昔は秋になるとあちこちの田んぼや畑で竹作りの稲木干しを見ることができました。

## C 竹林 Chikurin



天和3年(1683)の創建、学業成就、合格祈願、「靈験あらたか」な文殊さん…として、古くから信仰を集め、8月下旬の例祭には、地区を揚げて盛大なお祭りが行われています。当初、険阻(けんそ)な山の中腹にあったものを1994年、現在地に移築しました。

## D 大智堂 Daichidou

通学バスを待つ子供たち、井戸端会議のご婦人たち、農作業の合間にちょっと休憩を…人が集うと自然と笑顔になるのは「田舎の特権」なのかもしれません。ここ、木住地区でも毎日どこかでキラキラした素敵な笑顔に出会えます。

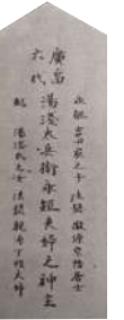


## E 笑顔 EGao

お宮の名前を笛の社と呼びましたが、その訳は大山住尊は住吉大社に祭られている住吉大明神であり、住吉大明神は農業(田)の神様として神代の昔からお神楽を奉ずる時、笛を吹かれる役におられたので大山住尊を笛吹大明神といい、その社を笛吹神社と名乗ったと伝えられています。

## F 笛吹神社 Fuefuki

明和・安永年間(1764~80)、園部藩の重税にあえぐ上木住の人々を救済するため、領主に免税の直訴を行いました。当時、直訴はご法度、太兵衛は捕らえられ牢死しましたが、その後藩より税を半減され人々は大喜び、しかし、代償として、藩より「歌舞音曲」を禁じられましたが、今に至っても、人々は同家を尊敬して止みません。(写真:唯一現存金の位牌)



“一休さん”的流れを受け継ぐ、大徳寺派のお寺です。春は花、秋は紅葉が美しく、また湯浅五郎兵衛の念持(深く帰依)仏は、当寺にお祀りしてあります。当寺は向陽山逢春寺といい、京都市北区紫野にある臨済宗大本山大徳寺の塔頭玉林院の末寺として大永年間(1521-1527)僧桂木の開基とされています。

## G 義民(湯浅太兵衛永矩) Gimini

下木住の猪谷林道を進んだ先に突如現れる大きな岩山…その岩山の石と石を打ち合わせると火花が出ることから「火打岩」といわれるようになったそうです。

## I 火打岩 Hiuchi-iwa



1700年代に、天災と  
“はやり病”が発生。  
苦しむ下木住の人々は  
宝暦4年(1760)、この  
地に石の十一面觀音  
さまをお祀りし、災難除  
けの額をかけました。  
この由来は、台座「法  
第字塔」に石文として  
残されています。

## J 十一面觀音 Jyuichimen



昭和27年(1952)3月、木住区公民館は区民全員参加での新築落成式が行われました。区民総会・敬老会の行事を中心に当時娯楽が少なかった時期に、映画・芝居が行われましたが、昭和60年代前半には公民館は解体され、同所に木住区集会所と名称も新たに新築されました。

## K 木住区集会所 Kozumi



猪谷林道は下木住区内にあり、林野庁が木住につけた唯一の林道です。秋には草刈りを行い、かってはまったく狩りに至る主要な道路で、現在も山の管理のために使われています。

## L 猪谷林道 Line



まったくと言えば「丹波松茸」ですが、近年ではほとんどお目にかかることはありません。40年前木住区では、年間500万円程の収穫があったとのことです。丹波松茸は香りの良さと弾力に富んだ歯ごたえで、平安時代から食されていましたが、近年は自然環境の変化により、収穫量が激減し非常に高価なものになってしましました。

## M まつたけ Mattake



府道から集落の玄関口には南丹市営バスターミナルがあります。平成6年(1994)10月より町営バスターミナルとして運行を開始、平成18年(2006)1月よりは市営になり今日に至っています。木住区内へは世木線が運行し、日吉駅から殿田小学校を経由し、生畑区の「ひよしフォレストリゾート山の家」まで、主に小学生の通学に利用され、地域の足を担っています。

## N 南丹市営バスターミナル NantanBus Terminal



当地へは「スプリングスひよし」から歩いて10分程の距離にあり、これはスゴーイ…とビックリすること請合い!! 大杉があります! そっと触れると、身体中に力がみなぎり、清々しい気持になること請合い!! 木住の笛吹神社のご神木とされる巨木は、幹周り6.4m、樹高約46m(2019年3月現在)は日吉町最大で、京都の自然200選にも選ばれています。

## O 大杉 (パワースポット) Oosugi



見上げると満点の星空  
にうつとり…  
都会で生まれ育った人  
が田舎の星空を眺める  
と、「空の彼方には、こん  
なにも星があったのか!」  
と感激するでしょう!  
「大空に鳴り響く雷の  
音」、「雪降る夜の静  
寂」すべてが木住(田  
舎)の宝物なのです。

## P ピカピカ（夜空） PikaPika



お地蔵さんには、名のと  
おり首がない。初めから  
首がなかったのか、それ  
とも途中でなくなつたも  
のなのか、定かではあり  
ません。  
言い伝えでは木住の谷  
に老人と孫が二人で住  
んでいた。二人の暮らし  
は貧しかった。ある時、孫  
が目を悪い、やがて盲目  
になりましたが。老人は  
「首のないお地蔵を祀る  
ように」とのお告げを夢  
に見、それに従うと孫の  
目はたちまち見えるよう  
になったとの事です。

## Q 首なし地蔵 Question

多くの墓地の入り口に  
は六地蔵があります。  
六道とは地獄(じごく)・  
餓鬼(がき)・畜生(ちく  
しょう)・修羅(しゅら)・  
人間界・天上界のそれ  
ぞれにあって、衆生  
(しゅじょう)の苦悩を救  
済する地蔵菩薩(じぞう  
ぼさつ)のこと。六地蔵  
には、寺院・路傍・墓地  
などに六体の地蔵が祀  
られています。

## R 六地蔵 Rokujizou

昭和63年(1988)、國  
民体育大会アーチエ  
リーア会場の指定を受  
け、選手や来場者への  
歓迎の意味を込めて植  
樹されたシダレザクラ  
は、地域の区民に育ま  
れて樹齢30年を超ま  
した。毎年春にはソメイ  
ヨシノの花散る頃から  
艶やかな姿で咲き始め  
ています。

## S シダレザクラ Shidare

日吉の黒豆は「日吉  
丸」と呼ばれ、大粒で  
肉質もよく、朝霧が多く  
昼夜の寒暖差が大き  
いこの地域特有の風  
土によって育ちます。か  
つて、木住は4ヘクタ  
ークもある大生産地でし  
たが、近年は生産量の  
減少が続いていまし  
た。しかし、一昨年には  
1ターンされた方が黒豆  
生産に挑戦をされてお  
り、期待がかかってい  
ます。

## T 丹波黒豆 Tanbakuromame

毎年10月の体育の日  
前後には秋の祭典と称  
して運動会が開催され  
ます。当日は地域外に  
越された親族も参加し、  
午前中は空き缶釣りや  
玉入れ等の競技を中心  
に、午後は豪華景品が  
振舞われる○×クイズや  
bingoゲーム等を行  
賑やかに!  
お昼はグランドにて町民  
全員お弁当をいただき  
交流を図っています!

## U 運動会（秋の祭典） Undoukai



木住川は一級河川として生畑地域から全長約6kmの狭い山あいの中を流れ、「物干し竿が懸けられる」「うなぎの寝床」とも言われたと聞いています。又、河道が自然のままに流れ、蛇行しているため、木住川には七つの橋が架けられおり、それぞれ名前がついています。



## V バケーション（木住川）

Vacation

木住区には自治組織の他に高齢者を見守る「木住サロン」や女性グループの「なごみ会」、笛吹神社の祭事を行う氏子会など沢山のグループが活動しています。とりわけ70歳以上が参加する「満寿美会」は毎週木曜日にはグランドゴルフを行うなど、精力的に活動をされています。

W 輪

Wa



## X 木住親水公園（交流）Shinsuikouen

木住区集会所の前には砂場や遊具等が整い、木住川に親しめる市営の公園があります。区民にとっては運動会やグランドゴルフ等のスポーツ施設の場として、遠方よりは小さな子供が安全に川に親しめ、バーベキュー等ができる設備の整った無料のアウトドアの場として、好評を得ています。



## Y 湯浅五郎兵衛 忍法「天井張り付」の術 Yuasa

幕末、倒幕の志士として活躍。1865年～67年頃には、西郷どん（西郷隆盛）、桂小五郎（木戸孝允）等とも親交、明治維新の立役者の一人です。園部藩から捕縛に来た兵士を、忍法で張り付けたエピソードが残っています。旧邸の写真は、日吉町郷土資料館に保管され、石碑は木住に現存しています。



## Z 阿弥陀堂（座像）病んでいる所によく効く薬 amidabutsu Zazou

上木住の小高い場所に、阿弥陀佛を祀っています。例祭は1月7日頃の日曜日です。お祓いをした赤土を新酒で溶き、先ず、仏さまの額、両脇に、胸、腹、両脚に塗りつけ、その後、参拝者にも同様のこととし、無病息災、家内安全を祈願しています。



1月1日 — 初詣

1月15日 — とんど

3月 — 祈年祭

10月 — 秋祭

11月 — 新嘗祭

12月 — 正月用  
門松つくり



## 山の神さま

木住の入口の山中に「山の神」の祠が5つ祀っています。昔、木住の人は木を扱う仕事が生業でしたので、山の神は自分たちの仕事場である山を守護する神として大切にされていたそうです。因みに山の神は女神であると言われています。



## 夢の七つ橋

蛇行の多い木住川には下流から宮の平橋(昭和63)、笛吹橋(昭和63)、大町下橋(昭和62)、大町上橋(平成元)、高井根橋(平成4)、観音橋(平成元)、番戸橋(平成5)の七つの橋が架かっています。

木住は「湯浅」姓が多く、葛屋の家には家紋の九曜紋が誇らしく掲げています。九曜紋は細川家の家紋で知られています。室町時代末期の湯浅家の湯浅宗清と細川忠興とは異母兄弟でした。その為、細川家は湯浅氏を親戚として扱い、細川家の家紋である「九曜」の使用を許されました。両家の親交は明治時代まで及びました。真ん中の大きな丸は太陽、その周りを囲っている小さな丸は星を表しています。

## 九曜紋



## 笛吹山

江戸時代、笛吹山には楓樹が多く、晚秋の眺望は絶景とされ「和漢三才図絵」では千歳山・富小山(八木町)と併せ丹波三山と言わっていました。丹波の名勝として右の歌が歌われました。

嵐吹く笛吹山の秋風に  
萬代の秋くらべこそすれ



電車で



車で

JR京都駅から山陰本線(嵯峨野線)約60分  
JR大阪駅から約1時間30分  
最寄駅／日吉駅

京都縦貫自動車道(園部IC)から約20分  
最寄I.C./園部I.C.

# 木住AtoZ

発行日 2019年3月

制作・発行 木住区

〒629-0332 京都府南丹市日吉町木住木度ヶ鼻7-3

区長 湯浅昭三(090-7962-1316)

協力

塩見直紀

(半農半X研究所代表、福知山公立大学特任准教授、  
総務省地域力創造アドバイザー)



販売価格 100円

